

平成25年 市職員への年頭訓示

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

新しい年を、みなさんも清々しい気持ちで、迎えられたことと思います。

今年、木津川市が発足してから早6年目です。

職員のみなさんには、発足時から施策の統一など、様々な重点業務に取り組んで戴いたお陰で、無事に市政を進めてこられました。

このことは、職員の一人ひとりが、力を合わせて取り組んで戴いた賜と感謝をいたしております。

さて、木津川市を人に例えますと、この春からはいよいよ小学生です。

つなぐ手は、親から近所のお兄さんやお姉さんに代わります。

同様に、木津川市も地方交付税の算定替えに備えて、ひとり立ち出来る、取り組みをより一層進める必要があります。

昨年、ノーベル医学・生理学賞を受賞されました山中伸弥さんが、アメリカ留学中に恩師から教わり以来、常に心がけておられることをご紹介します。

それは、ビジョン＝目的をはっきり持って、それに向かってワークハード＝一生懸命する、ということです。

これは、当たり前のことかもしれませんが、非常に難しいことです。

本来、日本人は勤勉な国民ですから、ワークハードは得意としています。

職員の皆さんの多くは、一生懸命仕事をしていただいています。

しかし、冷静に考えますと、一生懸命仕事をしていることについて、目的がはっきりしないまま、忙しく仕事をしている場合があります。

私自身も気をつけないといけないのですが、つつい自分は頑張っているという風に考えがちですが、ビジョンが市の政策と一致していなければ、それは無駄な努力になってしまいます。

これからいろいろなことをしていく上で、ビジョンとワークハードを思い出して戴き、本当に自分たちのビジョンが、市の政策と一致しているかどうかを、常に確認して戴きたいと思います。

次に今年、未来の木津川市の礎を築いていく大変重要な年となります。

学研木津中央地区「城山台」のまち開きに伴います、小学校の建設や民間保育園の整備、さらには、木津中学校の全面改築など、子どもたちの教育や保育に関する施設整備を行います。

併せて、国道163号木津東バイパスの天神山線や木津川架橋の建設、懸案のクリーンセンターの建設などに、市を挙げて取り組んでいかなければなりません。

市として取り組んでいる施策を十分理解し、自らの職務だけでなく、木津川市全体を考え職務に取り組んでいただきたいと思います。

そして「子や孫の世代に健全財政のまち」を引き継ぐという、市民の皆様の負託に応えていきたいと思えます。

そして、職員の皆さんは、部署に関わらず、木津川市の評価の基礎を担っていることを十分自覚し、日々の職務に専念してください。

市民の皆さんも、職員の皆さんの職務に対する姿勢を日々感じておられます。

それが、市のイメージや評価につながっていきます。

6年目を迎え、今一度気を引き締めていただきたいと思います。

結びに、今年、十干十二支の「癸（みずのと）」、「巳（み）」の年です。

この組み合わせは、癸と巳とが結びつくと、ひとつの物事が終結して新しい事象が始まる、物事が順序を立てて新たに出発する、年めぐりをあらわすといわれています。

今年がみなさんにとりまして、幸多い年でありますことと、木津川市の更なる飛躍を祈念いたしまして、年頭の訓示といたします。

平成25年1月4日

木津川市長 河井 規子